

令和7年度全国学力・学習状況調査より（中学校）

児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する結果の分析と
改善に向けた今後の取組について

福島市教育委員会

1 はじめに

福島市教育委員会では、令和7年度全国学力・学習状況調査を市教育施策に係る検証と改善に役立たせるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々のご理解とご協力を得ながら、学力の向上を一層図っていきたいと考えております。つきましては、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。

なお、本市では各校の学力調査の数値結果等について、序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、個々の学校名を明らかにした公表は行っておりません。

2 調査の概要

調査日	令和7年4月17日
調査対象	市立小学校40校の第6学年の全児童 市立中学校18校の第3学年の全生徒 市立義務教育学校1校の第6学年の全児童、第9学年の全生徒
調査内容	小学校第6学年 国語、算数、理科 中学校第3学年 国語、数学、理科 生活習慣や学習環境等の質問調査

3 教科に関する調査の結果〔平均正答率及び平均正答数〕

小学校第6学年
当日実施人数
1,971人

	福島市	福島県	全国（公立）
国語	65%	65%	66.8%
	9.1問／14問	9.1問／14問	9.4問／14問
算数	55%	55%	58.0%
	8.7問／16問	8.8問／16問	9.3問／16問
理科	56%	56%	57.1%
	9.5問／17問	9.5問／17問	9.7問／17問

中学校第3学年
当日実施人数
1,753人

	福島市	福島県	全国（公立）
国語	54%	53%	54.3%
	7.6問／14問	7.5問／14問	7.6問／14問
数学	46%	45%	48.3%
	6.8問／15問	6.8問／15問	7.2問／15問
理科	IRTスコア: 498 共通問題: 2.9問／6問	IRTスコア: 496 共通問題: 2.8問／6問	IRTスコア: 503 共通問題: 2.9問／6問

上段：平均正答率
下段：平均正答数

4 今回の調査結果からわかる本市の特徴

○成果となる主な内容
▲課題となる主な内容

小学校		
国語	算数	理科
○ 文章と図表などを関連付けて必要な情報を見付けること。 ○ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ▲ 目的や意図に応じて情報を分類して、伝え合う内容を検討すること。 ▲ 文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	○ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと。 ○ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えること。 ▲ 目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えること。 ▲ 図形を構成する要素に着目し図形を考察すること。	○ 花のつくりの特徴や受粉について理解し、説明すること。 ○ 実験結果の違いをまとめたわけについて、結果を基に考察すること。 ▲ 乾電池のつなぎ方の特徴を理解し、適切な実験方法を考えること ▲ 温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、実際の事象について考察すること。
中学校		
国語	数学	理科
○ 読み手の立場に立って、表記を確かめて文章を整えること。 ○ 事象や行為を表す語彙について理解すること。 ▲ 目的に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にすること。 ▲ 表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	○ 相対度数の意味を理解し、グラフを活用して、数学的に処理すること。 ○ 特定の場面において、必ず起こる事柄の確率について理解すること。 ▲ 一次関数におけるxの増加量に対するyの増加量を求めること。 ▲ 事象の中にある関数関係を見いだし考察する場面において、問題解決の方法を数学的に説明すること。	○ 見いだした問題を、科学的な探究として解決するための課題を設定すること。 ○ 共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、多面的・総合的に分析して解釈すること。 ▲ 実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すこと。 ▲ スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の茎や根の構造について適切に表現すること。

福島市の子どもたちの学力を一層伸ばすために

身に付いている力

中学校第3学年

国語

- ① 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える力
- ② 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使う力

育てたい力と手立て

- ① 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力
→ 何のために、誰に対して、どのような意図をもって書くのかを具体的に考え、材料を比較しながら取捨選択したり、ある観点から分類したり、情報と情報との間の意見と根拠の関係を見いだして整えたりする学習を大切にしていきます。
- ② 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力
→ 文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、文章の構成や展開、表現の効果について自分の考えを書いて発表する機会をもち、その考えの根拠について吟味する授業を大切にしていきます。

中学校第3学年

数学

身に付いている力

- ① 相対度数の意味を理解し、数や式、表、グラフなどを活用して、数学的に処理する力
- ② 特定の場面において、必ず起こる事柄の確率について、日常的な場面において解釈する力

育てたい力と手立て

- ① 日常生活や社会の事象における問題解決において、その事象から関数関係を見いだし、数学的に解決する力
→ 増加量や変化の割合の意味の理解を深めるとともに、日常生活や社会の事象を理想化したり単純化したりすることで、二つの数量に関数関係を仮定し、問題解決をする学習を大切にしていきます。
- ② 図形を考察する場面において、統合的・発展的に考察する力
→ 証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての性質を見いだしたり、条件を変えて考察し、共通する性質を見いだしたりする学習を大切にしていきます。

中学校第3学年

理科

身に付いている力

- ① 身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する力
- ② 共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的・総合的に分析して解釈する力
- ③ インターネット等で収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能

育てたい力と手立て

① 化学変化を質的・実体的な視点で捉えることができる力

→ 化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に捉えるようにする。1人1台端末を活用し、原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにしていきます。

② 植物の特徴に関する知識及び技能を活用し、外部形態と内部形態等を関連付けて捉える力

→ 様々な植物について根や葉（外部形態）、茎の断面（内部形態）等の視点を明確にした観察（Web 資料の活用含）を行うことで、共通点や相違点に生徒自身が気付けるようにしていきます。

中学校・児童質問調査の結果から

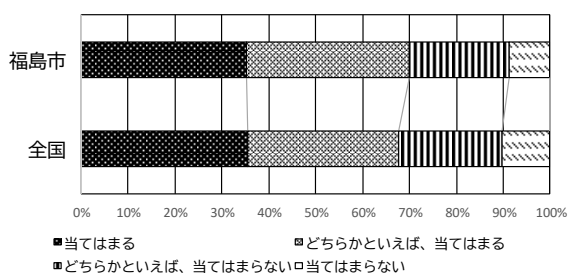
本市の子どもたちのよい点

○ 将来への展望と実践的な姿勢

『将来の夢や希望を持っていますか』の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合計の割合は、69.6%であり、全国平均を2.1ポイント上回っています。将来に対する希望や具体的な目標を持つ生徒が多いことが分かります。

さらに、国語や理科において、学んだことを将来や実生活に結びつけたり、観察や実験を通じて自ら問いを立て、振り返ったりする質問項目における肯定的回答も、全国平均を上回っています。これらのことから、実践的で応用的な学習への意欲が高いことが見て取れました。

将来の夢や希望を持っていますか

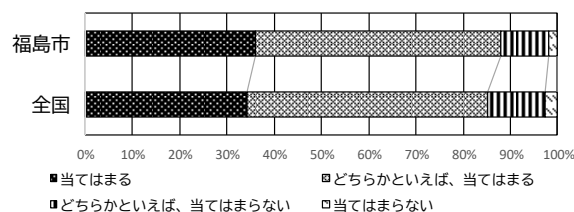


○ 教師への信頼感と学習意欲

『先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか』の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の合計の割合は86.8%であり、全国平均を3ポイント上回っています。また、『先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか』という質問項目も、肯定的な回答が全国平均を上回っています。

これは、教師が生徒一人一人の理解度に合わせて指導を行っているということであり、生徒が安心して質問し、納得するまで学んでいることを示しています。生徒が「分かるまで教えてくれる」と感じていることは、学習内容の確実な定着だけでなく、教師への信頼感にもつながり、学習意欲の向上に大きく貢献していると考えます。

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



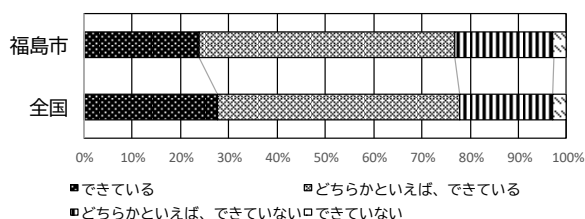
本市の子どもたちの課題

○ 自律的な学習スキル

『分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか』の質問に対し、「できている」「どちらかといえば、できている」と回答した生徒の合計割合は 76.6% であり、全国平均を 0.9 ポイント下回りました。この質問では、特に「できる」と回答した生徒の割合が 23.7% で、全国平均を 3.7 ポイント下回っています。

生徒が学習方法を選択し、自ら「学びとる」ことができるよう授業改善を図り、自律的な学習スキルを高めていきたいと考えます。

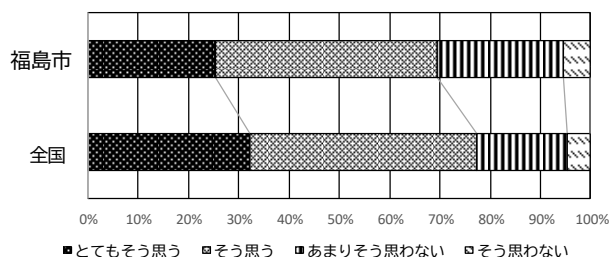
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



○ ICT 活用能力の偏り

『あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか』の質問に対し、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒の合計の割合は、68.0% であり、全国平均を 8.6 ポイント下回っています。他方、『あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか』の質問については全国平均を上回っていることから、ICT の総合的な活用能力に偏りがあることが分かります。

あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか



「プレゼンテーション（発表のスライド）を作成する」というような、アウトプット型の ICT 活用力を高めるには、単にツールの使い方を覚えるだけでなく、効果的な表現方法や情報整理のスキルを育成することが重要だと考えます。例えば、総合的な学習の時間で学んだことをまとめ、表現する際に、「同級生に関心を持ってもらうプレゼンを作成する」「地域の方に学んだことを紹介するプレゼンを作成する」など、目的意識をもって活動する経験を積ませ、自信をもって ICT を活用したプレゼンテーションが行えるように、学習活動の充実を図っていきます。

学力向上へ向けた福島市教育委員会の取組

○ 日々の授業の充実に向けて

- ・ 年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問・授業研究会を通して、よりよい授業の実現に向け、個々の教員の指導力向上を図ります。
- ・ 全ての教科を対象に指導主事を派遣し、教員の授業力向上に努めます。
- ・ 各教科等の特質に応じて、1人1台タブレット端末を効果的に活用することで、学習活動の充実を図り、生徒の学習活動を支援します。加えて、家庭においても自分のペースで積極的に学習に活用できるように、タブレット端末の持ち帰りを推奨していきます。
- ・ 各中学校区の学校の管理職や学力向上担当者と共に、小中の共通の課題や学力向上策を協議し、国語や数学をはじめとして、各教科の学力向上を図ります。

○ 家庭学習の充実に向けて

生徒質問「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」に対し「1時間以上」と回答した本市の生徒は70.6%で、全国（61.6%）を大きく上回っており、家庭学習の習慣や主体的に学習に取り組もうとする態度が育ってきていると言えます。一方で、「2時間以上」と回答した本市生徒は25.1%と、全国（30.8%）を下回っています。生徒がさらに意欲的に粘り強く家庭学習に取り組むために、質的な向上はもとより、量的な充実を図っていきます。

本市では、「家庭学習のスタンダード(福島市版)」を作成し、各校での活用を奨励しています。今後も「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図るとともに、自らの学びをマネジメントする力の育成に努めていきます。

保護者の皆様へ

今回の「全国学力・学習状況調査」の結果から明らかになった課題の解決に向け、福島市教育委員会、学校が一体となって、引き続き、授業改善等の取組を推進してまいります。

今年度も本調査の結果から、本市の児童が家庭学習の習慣を身に付け、主体的に学習に取り組んでいることがうかがわれました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

学校と家庭がともに手を携えることで、お子さんの学力向上に向け最大限の効果が発揮されます。今後におきましても、家庭での学習習慣の確立に向け、以下の点についてご協力をお願いいたします。

- 十分な睡眠時間の確保、「早寝、早起き、朝ご飯」、テレビやゲーム、スマートフォンの利用時間や利用方法等についての話し合い（ルールに基づいたメディアコントロール）など、望ましい生活習慣の確立が不可欠です。
- お子さんが「時間を上手に使い、自分に合った集中できる場所で」落ち着いて学習できる環境を整えることが大切です。その際、十分な家庭学習時間が確保できるよう、生活リズムの改善などについてご助言をお願いします。
- お子さんの努力やその成果を大いに褒めてあげてください。ご家族の温かい言葉や励ましが、新たな学びに向かう意欲や自信につながります。
- お子さんが自分自身で意思を決定する場面を積極的につくることで、主体的に考え、新しい考えを生み出そうとする意識や態度を養うことにつながります。
- 中学3年生は高校入試を半年後に控え、精神的に不安定になる傾向にあります。困りごとや不安があるときに、日ごろからいつでも相談できる関係づくりが大切です。